

## 性役割について（Ⅱ）—両親の認知

猪野郁子\*・荆尾千恵子\*\*

Ikuko INO and Tiekō KATARAO

A Study on the Sex-Role (Ⅱ)

—The Cognitive of Sex-Role in Parents—

### Ⅰ はじめに

前報において、父親が男性役割としてあるいは女性役割としてどのような役割を期待しているのか、又、それらは、中学生の息子や娘たちのそれとどのように異なっているのか等について報告を行った<sup>(1)</sup>。

そこでは、男性とか女性とかを問わず、まず人間として身につけておくことが望ましい要素を上位に期待し、ついで、男性には社会生活を行っていく上で身につけていることが望ましい要素を、女性には家庭人としての望ましい要素を期待していることが明らかとなった。

又、生徒の役割期待は、大筋では父親の示した傾向と類似しており、男子生徒と女子生徒間の認識の差は、父親が期待した男性役割と女性役割間の差とほぼ一致していることも明らかとなった。

本報では、母親が期待している男性役割・女性役割を明らかにし、父親とどのような認識のちがいがあるかみていくことにする。

### Ⅱ 方法

前報に報告したように、柏木による「性役割期待調査」を用いて<sup>(2)</sup>、男子をもつ母親には「男性としてどの程度望ましいか」、女子をもつ母親には「女性としてどの程度望ましいか」、双方をもつ母親には男女各々について期待の度合を記入させた。加えて、中学生男女生徒には自己の性についての期待度を記入させた。

対象は、前報同様、大田市立第二中学校1～3年生の生徒とその母親である。母親と生徒の双方の調査用紙の

そろっている248組について結果を報告する。

対象となった母親の年齢は、30代後半から40代前半にかけてが80%を占めている。又、農林漁業、会社員・公務員、自営業などに従事している者が70%となんらかの形で働いている者が多い。特に、農林漁業と自営業に従事する者が働く母親の $\frac{1}{3}$ を占めていることは、この地域の特性をあらわしていよう。

### Ⅲ 結果及び考察

#### (1) 母親の性役割期待

母親は、男性役割、女性役割としてどのようなことを期待しているのであろうか。期待度の高い順に10位まで求めたものが表1である。

男性・女性ともに上位に期待されている項目は、「健康な」「愛情豊かな」「仕事に専心的」「忍耐強い」「視野の広い」「活発な」の6項目である。「活発な」を除いた5項目は、父親も男女に上位に期待している項目である。「活発な」は父親の場合は男性にのみ上位に期待している。

母親の上位9位までの項目は、父親においても上位10位までに入っている項目である。母親の場合の10位—男性の「理想をもった」「自信のある」、女性の「活発な」は、父親の場合は「頭がよい」となっている。

このように、母親が期待する項目は、父親と同様、男とか女とかである前に人間として身につけておくことが望ましいものを期待し、その上に男性には夢のある社会人を、女性には活動的な家庭人を期待していると言えよう。

次に、男性と女性とでは、役割期待にどのような差があるかみた。結果は表2である。

T検定の結果、有意差のみられた項目のみをt得点の

\* 島根大学教育学部家政研究室

\*\* 横田町立横田中学校

表1 母親の性役割期待(1)

息 子				娘			
順位	項 目 名	得 点	父の順位	順位	項 目 名	得 点	父の順位
1	健 康 な	6.50±1.05	1	1	健 康 な	6.37±1.10	1
2	仕 事 に 専 心 的	5.97±1.05	4	2	愛 情 豊 かな	5.93±1.25	2
3	経 済 力 の ある	5.82±1.22	5	3	気 持 ち の こ ま や かな	5.81±1.18	6
4	忍 耐 強 い	5.79±1.18	2	4	仕 事 に 専 心 的	5.69±1.17	8
5	積 極 的 な	5.78±1.05	7	5	家 庭 的	5.67±1.31	3
5	愛 情 豊 かな	5.78±1.08	8	6	視 野 の 広 い	5.59±1.38	7
7	視 野 の 広 い	5.77±1.21	3	7	行 儀 よ い	5.56±1.46	4
8	活 発 な	5.71±1.06	6	8	忍 耐 強 い	5.48±1.26	5
9	指 導 力 の ある	5.61±1.22	8	9	か わ い い	5.39±1.30	10
10	理 想 を も っ た	5.58±1.03		10	活 発 な	5.36±1.14	
10	自 信 の ある	5.56±1.14					

表2 母親の性役割期待(2)

	項 目 名	男 性 得 点	女 性 得 点	t
男 性 に 得 点 の 高 い 項 目	女性をリードする — 男性に依存的	5.06±1.19	3.81±1.18	8.14***
	女性を認める — 男性に一目おく	5.23±1.08	4.35±1.21	5.47***
	背  が  高  い	5.56±1.19	4.75±1.08	5.09***
	経 済 力 の ある	5.82±1.22	5.19±1.14	3.81***
	自 信 の ある	5.56±1.14	4.93±1.23	3.78***
	政 治 に 関 心 の ある	5.06±1.33	4.40±1.26	3.75***
	指 導 力 の ある	5.61±1.22	4.98±1.22	3.72***
	意 志 強 固 な	5.11±1.31	4.44±1.38	3.55***
	理 想 を も っ た	5.58±1.03	5.12±1.04	3.22**
	線  の 太  い	5.21±1.16	4.68±1.29	3.07**
	学 歴 の ある	5.06±1.08	4.63±1.09	2.79**
積 極 的 な	5.78±1.05	5.33±1.29	2.72**	
活 発 な	5.71±1.06	5.36±1.14	2.31*	
女 性 に 高 い 項 目	か わ い い	4.50±1.01	5.39±1.30	5.40***
	お し ゃ れ な	4.37±1.13	4.91±1.20	3.32**
	行 儀 よ い	5.04±1.17	5.56±1.46	2.81**
	気 持 ち の こ ま や かな	5.08±1.20	5.81±1.18	2.72**
	容 貌 の 美 しい	4.35±0.89	4.72±1.18	2.54*

\*\*\*P&lt;0.001 \*\*P&lt;0.01 \*P&lt;0.05

高い順に表にあげた。

男性の方に有意に期待の高い項目は13項目、女性の方に有意に高い項目は5項目であった。

有意差のみられた18項目中、「学歴のある」を除いた残りの17項目は、父親の場合にも男性女性間で有意差がみられた項目である。

「経済力のある」「自信のある」「指導力のある」「理想をもった」「積極的な」「活発な」は、男性役割として上位10位の中に期待されている項目であるように、「かわいい」「行儀よい」「気持ちのこまやかな」は女性役割として上位10位中に期待されている項目であるように、社会的に活動する男性と気持ちのかわいい中にも独立した女性を望んでいるといえる。

テレビ番組には、今なお男女の役割分業を固定化して描いたものが多い中で、最近「専業主夫」を主人公とす

るホームドラマが増え、一見「男は外で仕事、女は家庭を守る」とする伝統的な性役割分業観が崩れているように見える。

確かに、女性の意識調査の結果などをみれば、年代が下がるに従い、こうした性役割分業観に同意しない割合が増えている。しかし、一方、先進諸外国に比べ、家庭内での男女の平等を感じる女性は少なく、男性が優遇されていると思っている<sup>(9)</sup>。

つまり、意識の上では、性役割分業について平等を志向していても、現実には、女性に役割が過重されており、又、性役割についての多くの研究が指摘しているように<sup>(4)(5)(6)</sup>、相変らず、伝統的な男性役割・女性役割が期待されているということであろう。

こうした傾向が、この調査にも表われていると言えよう。

表3 性役割に対する両親の期待一致

	項 目 名	父親の期待点	母親の期待点	t
男       性	自 信 の あ る	5.56±1.00	5.56±1.14	0.01
	愛 情 豊 か な	5.76±0.90	5.78±1.08	0.18
	積 極 的 な	5.81±0.99	5.78±1.05	0.19
	理 想 を も っ た	5.62±0.94	5.58±1.03	0.37
	経 済 力 の あ る	5.87±1.05	5.82±1.22	0.37
	仕 事 に 専 心 的	5.92±1.07	5.97±1.05	0.38
	社 交 的 な	5.35±0.98	5.30±0.95	0.40
	理 性 的	5.27±1.03	5.21±1.06	0.46
女       性	女 性 を 認 め る	5.17±0.99	5.23±1.08	0.48
	気 持 の こ ま や か な	5.00±1.28	5.08±1.20	0.51
	経 済 力 の あ る	5.18±1.22	5.19±1.14	0.06
	積 極 的 な	5.32±0.93	5.33±1.29	0.08
	仕 事 に 専 心 的	5.71±0.99	5.69±1.17	0.18
	お し ゃ れ な	4.88±1.08	4.91±1.20	0.22
	理 性 的	5.23±0.91	5.19±1.20	0.28
	現 実 的	4.74±1.01	4.70±1.08	0.30
性	指 導 力 の あ る	5.05±0.94	4.98±1.22	0.54
	男 性 に 依 存 的	3.72±1.11	3.81±1.18	0.59
	学 歴 の あ る	4.71±1.07	4.63±1.09	0.65
	質 素 な	5.28±1.14	5.18±1.27	0.67

## (2) 性役割に対する両親の期待差

すでにみたように、上位に期待する項目は男性役割、女性役割とも、10位中9位までは父親と母親で一致していた。

そこで、次に、父親と母親では期待の程度がどの程度ことなるのかみていくことにする。

まず、父親と母親間で、期待の程度がほぼ一致しているのはどの項目かみたのが表3である。t得点の低い順に10項目ずつ取り上げたものである。

「仕事に専心的」は、男性役割・女性役割ともに両親の期待が高く、又、両親間で期待度が一致している項目であるが、柏木によると、この項目は男性の方により高く期待されるものであるという<sup>(7)</sup>。

それでは、両親間に有意の期待差がみられた項目はどのようなものであろうか。t得点の高い順にまとめたものが表4である。

男性役割については、「忍耐強い」「頭がよい」「おし

間性をより重視しているとみることができよう。

吉田が保育者のもつ幼児への性役割期待として『両性性>男性性>女性性』の順で期待していると報告<sup>(9)</sup>している。本調査においても、男性役割・女性役割とも、34項目中25項目で父親・母親間で期待がほぼ一致していることは、父親の方により顕著であるとは言え、両親とも、まず、『人間性』に関わる項目を期待し、その上に、男性には社会人(経済人)としての要素を、女性には芯は強いがかわいい家庭人の要素を期待していると言えるのではなかろうか。

## (3) 母親と生徒の期待差

父親と生徒の間には、期待の度合においては差がみられたが、男性役割・女性役割として期待する項目については、全体的に一致していたと言える。

それでは、母親と生徒の間ではどうであろうか。

母親と男子生徒、母親と女子生徒間で有意差のみられ

表4 性役割に対する両親の期待差

	項 目 名	父親の期待点	母親の期待点	t
男 性	忍 耐 強 い	6.14±0.90	5.79±1.18	2.74**
	頭 が よ い	5.68±0.95	5.34±1.16	2.60*
	お し ゃ れ な	4.01±1.15	4.37±1.13	2.46*
	視 野 の 広 い	6.04±0.95	5.77±1.21	2.00*
女 性	忍 耐 強 い	5.93±0.93	5.48±1.26	3.33**
	健 康 な	6.70±0.64	6.37±1.10	3.04**
	行 儀 よ い	5.95±0.88	5.56±1.46	2.64*
	道 徳 的 な	5.52±0.93	5.20±1.20	2.49*
	頭 が よ い	5.54±0.98	5.23±1.18	2.32*
	家 庭 的	5.99±0.96	5.67±1.31	2.27*
	自 信 の あ る	5.25±1.14	4.93±1.23	2.20*
	視 野 の 広 い	5.90±0.99	5.59±1.38	2.12*

\*\*P<0.01 \*P<0.05

ゃれな」「視野の広い」の4項目で、女性役割については、「おしゃれな」を除いた3項目に、「健康な」「行儀よい」など5項目を加えた8項目に有意差がみられた。

「忍耐強い」「頭がよい」「視野の広い」は、伊藤のいう『人間性—Humanity』にあたる項目であるが<sup>(9)</sup>、これらにおいて、いずれも父親の方が母親より有意に高く期待しているということは、父親の方がこうした面一

た項目について、t得点の高い順に表にまとめたものが表5である。上段に男子生徒との間の、下段に女子生徒との間の結果を示している。但し、男子生徒との間には34項目中26項目に有意差がみられたため、上位10位までを取り上げている。

母親と男子生徒間において目につくことは、「かわいい」「家庭的」「愛情豊かな」などのどちらかと言えば

表5 性役割に対する母親と生徒の期待差

	項目名	母親の期待点	男子生徒の期待点	t
	母親と男子生徒	経済力のあ	5.82±1.22	4.82±1.39
積極的な		5.78±1.05	5.04±1.37	4.20***
かわい		4.50±1.01	3.74±1.42	4.20***
質素な		5.06±1.17	4.37±1.20	4.03***
家庭的		5.44±1.09	4.80±1.24	3.80***
愛情豊かな		5.78±1.08	5.23±1.17	3.44**
学歴のあ		5.06±1.08	4.43±1.42	3.43**
指導力のあ		5.23±1.08	4.60±1.43	3.42**
母親と女子生徒	仕事に専心的	5.97±1.05	5.40±1.27	3.37**
	道徳的な	5.47±1.06	4.88±1.38	3.35**
	項目名	母親の期待点	女子生徒の期待点	t
	質素な	5.18±1.27	4.58±1.30	3.74***
	融通性のあ	5.07±1.29	4.60±1.12	3.03**
	気持ちのこまやかな	5.81±1.18	5.42±1.28	2.49*
	頭がよい	5.24±1.20	4.89±1.27	2.24*
	理性的	5.19±1.20	4.86±1.23	2.20*
謙遜な	4.86±1.23	4.52±1.17	2.19*	
積極的な	5.33±1.29	4.98±1.46	2.06*	

\*\*\*P&lt;0.001 \*\*P&lt;0.01 \*P&lt;0.05

「家庭人」的要素で差のみられることである。

母親と男子生徒間で差のみられなかったのは、「背が高い」「意志強固な」「行儀よい」「個性的」「謙遜な」「容貌の美しい」「現実的」「指導力のある」の8項目である。中でも、「個性的」と「容貌の美しい」はほとんど一致している(t=0.13, t=0.14)。

父親と男子生徒の間では29項目に有意差がみられ、「容貌の美しい」「現実的」「個性的」「背が高い」「従順な」で一致している。

すでにみたように、父親は母親よりも人間として身につけておいた方がよいと思われる要素をより強く期待しているが、大筋においては一致しているといえる。それ故、男子生徒との間のちがいが、父親の場合と母親の場合とが類似しているのは当然であるが、母親の方が男子生徒に「家庭人」的要素を期待しているように、母親の男子生徒への期待は社会人と家庭人の双方を満たす人間へと巾広いものであると言える。

このことは、先にも触れたように、現代の女性が、家

庭の中でも男女の平等を求めていることの現われとみることができのではなからうか。

母親と女子生徒間には、男子生徒とは逆に7項目にのみ有意差がみとめられた。

母親は男子生徒には「学歴のある」ことを期待し、女子生徒には「頭がよい」ことを期待している。「学歴のある」では、女子生徒との間ではほとんど一致した期待を示している(母親 4.63±1.09 女子学生 4.64±1.25 t=0.06)。

父親と女子生徒間で19項目に有意差がみられたのに比べ、母親との間では7項目であること、父親の場合と同様に、「質素な」「融通性のある」「理性的」など、中学生には理解されにくい項目に多く有意差のみられることなどから、母親と女子学生はよく一致していると言えるのではなからうか。

女子学生が母親とよく似た期待をもつことについて、伊藤は、娘が母親へ同一視している結果というよりは、親がどのような性役割観をもっているかを自己の性役割観

表6 全項目に対する期待差

項目名	男性役割への期待			女性役割への期待			男生 女 徒 間
	父親-母親	父親-息子	母親-息子	父親-母親	父親-娘	母親-娘	
背が高い							t=3.82 男>女
活発な		t=3.95 >	t=2.03 >				
積極的な		t=4.47 >	t=4.20 >			t=2.06 >	
気持ちやかな		t=2.76 >	t=2.39 >		t=2.57 >	t=2.49 >	t=6.73 <
経済力のある		t=5.62 >	t=5.26 >				
おしゃれな	t=2.46 <	t=2.98 >	t=2.34 >		t=2.31 >		t=6.61 <
意志強固な		t=3.56 >					t=3.16 >
行儀よい		t=2.17 >		t=2.64 >	t=2.44 >		t=4.66 <
融通性のある		t=4.37 >	t=2.29 >		t=4.65 >	t=3.03 >	
健康な		t=2.29 >	t=3.20 >	t=3.04 >	t=2.36 >		
線の太い		t=3.51 >	t=2.26 >		t=4.01 >		t=3.44 >
質素な		t=5.28 >	t=4.03 >		t=4.68 >	t=3.74 >	
愛情豊かな		t=4.04 >	t=3.44 >				t=5.36 <
視野の広い	t=2.00 >	t=5.70 >	t=3.20 >	t=2.12 >	t=2.06 >		
かわい		t=2.82 >	t=4.20 >		t=5.27 >		t=6.38 <
理想的		t=3.65 >	t=2.90 >		t=2.47 >	t=2.20 >	
仕事に専心的		t=3.19 >	t=3.37 >				
頭がよい	t=2.60 >	t=4.28 >	t=2.68 >	t=2.32 >	t=4.30 >	t=2.24 >	
忍耐強い	t=2.74 >	t=5.07 >	t=2.01 >	t=3.33 >	t=4.75 >		
個性的							
家庭的		t=3.61 >	t=3.80 >	t=2.27 >			t=6.60 <
自信のある		t=4.30 >	t=2.41 >	t=2.20 >	t=4.22 >		t=3.03 >
従順な			t=2.80 >		t=2.43 >		
社交的な		t=4.91 >	t=2.21 >				t=2.02 <
謙遜な		t=3.51 >			t=3.79 >	t=2.19 >	
容貌の美しい					t=3.38 >		t=2.08 <
女性をリードする 男性に依存的		t=2.90 >			t=2.06 <		t=3.89 >
現実的							
理想をもった		t=2.73 >	t=2.07 >				
学歴のある		t=2.71 >	t=3.43 >				
道徳的な		t=5.07 >	t=3.35 >	t=2.49 >	t=2.74 >		
指導力のある		t=3.90 >					
女性を認める 男性に一目おく		t=3.49 >	t=3.42 >				t=3.76 >
政治に関心のある		t=3.73 >	t=2.64 >		t=2.86 >		t=2.80 >

と密接に関連させて捉え、そして、自己の性役割観の型に近づけて認知する傾向があるからだと言っている。この場合、母親のみならず父親との間でも同様のことが言えること。父親と母親を密接に関連させて捉えるとも述べている<sup>(10)</sup>。

本結果では、娘と父親との関係においては、伊藤の述べるような明確な関係はみつけられなかった。

ともあれ、前報でもふれたように、女子の方が社会一般が女性にどのような期待が寄せられているかをよく把握しているといえよう。それに反して、男子は、世間一般の男性役割に対する期待が意識面には中広くなっているのに対し、実際には伝統的な男性役割で育てられている矛盾によって、自分の性役割をつかみかねているといえるのではなからうか。

表6は、全項目について、父親—母親、父親—男女生徒、母親—男女生徒、男子生徒—女子生徒間で、男性役割として女性役割としての期待に差がみられたかどうかを一覧表にしたものである。

#### IV ま と め

母親は、各性に対してどのような役割を期待しているのか、父親・生徒とのそれと比較しながらみてきた。

その結果、次のようなことが明らかとなった。

(1) 母親が男女各性に高く期待している項目は、「健康な」「愛情豊かな」「仕事に専心的」「忍耐強い」「視野の広い」「活発な」であった。「活発な」を除いた残る5項目は、父親も上位に期待していた項目である。

(2) 母親が女性よりも男性に有意に高い期待をよせている項目は、「経済力のある」「自信のある」「政治に関心のある」など13項目であった。

(3) 反対に、女性の方に有意に高く期待をよせていたのは、「かわいい」「おしゃれな」など5項目であった。

(4) これらのことから、母親も父親と同様に、男性役割としては、社会人（職業人）として望ましい要素を、女性役割としては、気持ちのかわいい家庭人としての要素を望んでいると言える。

(5) 父親と母親間に有意に差のみられる項目は、男性役割では、「忍耐強い」「頭がよい」「おしゃれな」「視野の広い」の4項目である。「おしゃれな」を除いて、父親の方が有意に高い。

(6) 女性役割では、「忍耐強い」「健康な」「行儀よい」「道徳的な」「頭がよい」「家庭的」「自信のある」「視野の広い」の8項目である。これら全てにおいて、父親の方が期待が大きい。

(7) 母親より父親の方が、伊藤のいう『人間性—Humanity』と伝統的な性役割を期待していると言える。

(8) 母親と男子生徒間で26項目に有意差がみられた。母親は、男子生徒に社会人と家庭人の双方の要素を満たす人間を期待している。

(9) 母親と女子生徒間では7項目に有意差がみられた。「質素な」「融通性のある」「謙遜な」のように、生徒にどちらかと言えば理解されにくい項目が多い。

(10) 母親と女子生徒間は、母親と男子生徒間、父親と女子生徒間よりも、よりよく一致していた。

(11) 母親より父親の方が、生徒より親の方が期待する度が高かった。

以上である。

母親とは、父親がどのような役割を果たす人であるかを子どもにイメージづける人であると原らは述べている<sup>(11)</sup>。

つまり、母親は、父親の考え、行動、家庭内の役割、社会に対する（家庭の外へ向っての）働きかけ等々について、子育てや日常生活の諸々との状況の中で代弁する役割をもっているということであろう。

そうであるとするならば、性役割に対する期待についても、父親と母親で一致するのは当然であると言える。

又、性役割のステレオタイプ化と、伝統的な性役割が重視されている社会において、男性の方が自らに期待されている役割を把握しやすいのに対し、女性の方は自らの役割を捉えにくくなっていると言われている<sup>(12)(13)</sup>。しかし、我々の結果からみると、男子生徒の方が戸惑っているのではないかと思われる。これは、中学生という年齢段階が関係しているのであろうか。それとも、養育側の母親に原因があるのであろうか。父親の代弁者である母親が、伝統的な性役割を容認し、養育態度にも示しながらも一例えば、男児が女性玩具で遊ぶことを禁じたり、女兒よりも攻撃性に対して寛大に扱ったり、体罰を加えたり一家庭内での役割平等を求め、あるいは、「男は仕事、女は家庭」に対する反撥心を知らず知らずのうちに態度に現わしているのであろうか。

これらの点に関しては、性役割意識をどう捉えるかという点とともに今後の課題としたい。

最後に、本研究に協力下さいました大田市立大田二中の生徒・保護者の皆さんに謝意を表します。

#### 文 献

- (1) 猪野郁子・荆尾千恵子：性役割について(1)，島根大学教育学部紀要（人文・社会科学）第19巻，p. 15-23，(1985)。

- (2) 柏木恵子：青年期における性役割の認知，教育心理学研究，第15巻，第4号，pp. 1-10, (1967).
- (3) 婦人白書，1984，pp. 70-74，草土文化，(1984).
- (4) 伊藤裕子：性役割の評価に関する研究，教育心理学研究，第26巻第1号，pp. 1-10, (1978).
- (5) 藤原照久・飯田和也：性差と玩具，日本保育学会第31回大会研究論文集，pp. 380-381, (1978).
- (6) 柏木恵子：『現代青年の性役割習得，現代青年心理学講座5，現代青年の性意識，金子書房，pp. 101-139, (1973).
- (7) 柏木恵子：前掲書(2)
- (8) 伊藤裕子：前掲書
- (9) 吉田耕一郎：保育者がもつ幼児への性役割期待と性別行動，日本保育学会第39回大会研究論文集，pp. 682-683, (1986)
- (10) 伊藤裕子：女子青年の性役割観と父母の性役割観の認知，日本教育心理学会第23回総会発表論文集，pp. 500-501, (1981).
- (11) 原ひろ子・我妻 洋：しつけ，ふおるく叢書1，弘文堂，(1974).
- (12) 柏木恵子：前掲書(2)
- (13) 伊藤裕子： “ (4)